

【今年度のテーマ】

“だれもが自分らしく生きられるまち・こおりやま”を目指して
【精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに関するワーキンググループ】
「地域共生社会実現のための土壌づくり」「地域力の向上を目指す」

【地域生活支援拠点事業ワーキンググループ】
「地域体制作りの強化」

【金銭管理ワーキンググループ】
「みんなで支える金銭管理の仕組みを作ろう」

【部会活動報告】

- 部会会議は隔月ごとの開催(年5回)
→令和5年6月21日、8月8日、10月10日、12月21日
令和6年3月14日
- 下記3つのワーキンググループ(WG)にわかれての活動(年5回)
【精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムに関するWG】
→令和5年6月21日、8月31日、11月16日、
令和6年2月15日、3月21日
※3月は愛知県半田市社会福祉協議会 前山憲一氏を招いての研修会
(年度評価)

<開成地区>

- ・民生児童委員定例会、地域ケア会議への継続参加。
- ・令和5年8月3日の会議では、心のサポーター養成研修を実施し、「こころのサポーター養成 研修で学んだことを活かして、誰もが住みやすい開成地区」をテーマに開催。
- ・地域ケア会議に参加する中で、地域の参加者より「障がいのある方から話を聞きたい」という意向あり。
令和6年2月20日の会議では、障がい当事者の方とのパネルディスカッションを実施。

- ・地域内で月1回実施されているイベント「えんがわ」に参加。地域に所在する福祉事業所にも参加いただいた。
- ・活動を通して、誰でも、つながったり、集ったり、交流したり、互いを知れる、地域が主体的に動くことを目指す。
→ある程度形作りが出来たが、もっと深めていき、広がっていく事を含め方向性を見直しを検討。

<安積地区>

- ・10月4日、専門職向け意見交換会を実施。14事業 24名(人数にはWGメンバー含)の参加。
「安積町のマップ作成・語る」
→フォーマルな資源以外にも、インフォーマル資源もマップにおとしこむことで、より自分たちの所属する地域を知ることや地域の中でのそれぞれの役割を共有することができた。
→地域包括ケアシステムの土台になる部分について、共通認識をもつことにつながる。
- ・次回は安積町にある事業所が開催する地域向けイベントに意見交換会のメンバーで参加予定。
地域への発信・交流のあり方について考えるきっかけ作りとする。
- ・今後は地域住民ともつながる動きをもつためにはどのようにすすめるか協議していく。

<全体として>

- ・次年度は開成地区・安積地区については、もっと広げて深めていく事を意識して、継続活動を実施。
- ・大塚製薬(郡山市と包括連携協定締結している)より「にも包括協議の場サポート事業」について案内あり。連携の可能性については今後検討していく。

【地域生活支援拠点事業 WG】

→毎月 第2木曜日 16時から

① 地域と繋がる仕組みづくり

- ・市内各保険センター、社協生活支援コーディネーター、介護分野との連携

② 周知の為の活動「障がい者地域生活支援拠点事業」を知っていた

く活動

- ・事業所や家庭を訪問しての拠点事業の説明
 - ・「障がい者地域生活拠点事業」のわかりやすいネーミングの検討
 - ・周知用の新たなチラシの作成
- ③ 前月の活動内容の報告
- ・相談、登録、体験の内容の共有と進捗状況の確認

【金銭管理 WG】

→※年 4 回 令和 5 年 6 月 21 日、9 月 28 日、12 月 8 日、
令和 6 年 3 月 14 日

- ・福祉サービス事業所等を対象に『金銭管理に関する実態アンケート調査』実施。

その結果を踏まえ、下記 2 グループに分かれて活動することとした。

1G：金銭管理に関する成功事例集の作成

→事例内容の検証

2G：金銭管理のマニュアル作成

→金銭管理支援を実施する上での指針となるもの

○その他、グループホーム・短期入所連絡会を開催

【部会活動の成果・改善】

【精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム WG】

専門分野を越えて、また専門職に限らず、地域住民や地域組織とのネットワークを作ることで、目標とする“だれもが自分らしく生きられるまち”展開を予定しているが、協議の場には、同地域に所在する事業所にも参加いただき、はじめの段階から地域が主体となって取り組むことができるよう配慮していく。

また今回あげた地区以外からも、地域の中で障害分野との連携の必要性を感じ、ともに地域づくりしたいとのニーズもきかれている。

部会以外でもそのような仕組み作りに取り組めるよう検討していきたい。今年度、福祉教育については動けなかったため、今後どのような展開をはかることができるか協議が必要。

【地域生活支援拠点事業 WG】

拠点事業をより多くの方に知っていただくため、各関係機関への働きかけを実施することができた。引き続き親しみやすいネーミングを考えた

新たなチラシ作成等協議中である。

また、相談や登録、体験の中では利用される側の要望と、受け入れる側のバランスが難しいと感じている。

さらに、障害種別によつての受け入れ態勢についてなども、今後検討して行かなくてはならない。

【金銭管理 WG】

各関係機関へのアンケートにより、実態把握、課題の整理をすることができた。今後各種マニュアル作成により、現場での活用につなげていく。また金銭管理に関しては権利擁護の視点や法的根拠のもとで実施していくことが必要であり、弁護士の先生にもご相談させていただきながら熟慮していきたい。